

自彊前進

題字 西村直子

NO. 28 令和4年12月8日(木)

新潟大学附属新潟中学校 学校だより

文責 教頭

※ 自彊前進…自ら努め励み、前に進むこと
(校歌3番の文言から)

令和5年度生徒会役員選挙終わる

先月の「音楽のつどい」をもって、附属新潟中学校の4大行事を終えました。これが終わるといよいよ代替わりの時期となります。先週立会演説会を終え、次年度の生徒会役員が選出されました。

先日、他県のある附属中学校の2年生から、学校に電話がありました。「附属新潟中学校の生徒会スローガンの『自主独立』について教えてもらいたい」とのことでした。聞くとその生徒は、生徒会役員選挙に立候補するようで、自身の公約を考えていた際、附属新潟中学校出身の母親が「附属新潟中には素晴らしいスローガンがあるから、聞いてみたら」とアドバイスしてくれたようです。

電話で『自主独立・協同』についてその意味やスローガン設定の経緯等を説明させてもらいました。以下は、その生徒からのお礼のメールです。



先週行われた立会演説会

「自主独立・協同」について、最初あった「自主独立」という学校スローガンに、生徒主体の議論により「協同」という言葉が加わったという事実を知り、自主独立だけではなく、すでにその時点で「協同」という精神が生徒一人一人にあったということに深く感動いたしました。また、そこが僕が目指すところなのだと気づかされました。

「自主独立」または「協同」だけでは成り立たない、二つの言葉と理念が合わさってこそ、個々の責任のもとお互いに尊重し合ってより良いものが作り出せる、という道筋の糧になるとより深く理解できました。

僕のスローガンは、そのまま使うのではなく「自主独立そして協同」にしようと思っていました。

「自主独立」と「協同」がかけ離れてなんとなく結びつくような別分野になってはいけないと改めて考えさせられました。二つが結びついてこそだと思いました。

今の学校をもっとより良く誇りあるものにするための理念として掲げたいと思っており、そのために、1年では終わらない長期的な議論も、2本目の公約として掲げたいと思っています。

より深く「自主独立・協同」について理解したく、資料もいただけるとのこと、本当にありがとうございます。

この生徒のお母様が今でも附属新潟中学校の生徒会スローガンを覚えておられ、お子さんに伝えたとすることに、附属新潟中学校に対する変わらぬ愛着、誇りを感じました。

上のメールにもありますが、「『自主独立』と『協同』がかけ離れて」はならない、ということが本当に大切だと思います。当校では、「真のリーダー」という言葉をよく使います。自論を朗々と展開することが得意なリーダーは世の中にあまっています。しかしながら、フォロワーの意見を十分に踏まえず、単に自分の考えだけを述べていたとしたら、それは「真のリーダー」とは言えません。リーダーには、常に『集団』を背負っているという意識が求められます。目標が共有されて初めて集団になります。その目標を達成するためにこそリーダーはいるのです。リーダーには十分に議論を重ね、フォロワーの意見を大切にされた言動が求められます。これこそ「真のリーダー」の姿です。このことから、昭和54年に『協同』が付加されたのもうなずけます。

他の附属中学校にも誇れる『自主独立・協同』の精神を継承し、更に発展させていきましょう。今年度の3年生が発展させた生徒会——成果を継承し、発展させる新生徒会の姿を期待しています。